

人生 75 年 愛と平和の歌い人

千秋昌弘 第 2 回リサイタル 歌詞・曲目解説

俺は枕木 村田静夫/詞

1956 年、第 3 回「国鉄のうたごえ祭典」に向け、産業別のうたごえが組織的に創作した最初の作品。線路に敷かれたバラス（碎石）につるはしを打ち込む重労働、その労働のリズムと日本の民族的な旋律で、四季の移ろいやみずみずしい生活感情を歌っている。当時、作詞者村田静雄は新宿駅信号係、作曲者沢口富保は池袋車掌区に務めていた。

俺は枕木
つくしと一緒に土の中 土の中
レールかつぎは 嫌ではないが
お花見ぐらいは
ソレソーレ してみたい

俺は枕木
草もむんむん土の中 土の中
お日様見てくれ このあぶら汗
夕立ち こいこい
ソレソーレ 雲が出た

(※ 歌は省略します)

俺は枕木
空を眺めて土の中 土の中
故郷の栗山 恋しゆてならぬ
もずやあけびは
ソレソーレ 達者かな

俺は枕木
霜にさされて土の中 土の中
吹雪やしばれにや
ひるみはせぬぞ
おしくらまんじゅうだ
ソレソーレ みんな寄れ

ヨイトマケの唄

美輪明宏/詞

歌手美輪明宏が、幼少時に一緒に育った友人の亡き母（日雇い労働者）を回顧してつくった歌である。当時、きらびやかな衣装でシャンソンを歌っていた美輪が、炭鉱町での興業に来てくれた炭鉱夫たちの、真っ黒に汚れた姿に衝撃を受け、彼らを励ましたいという思いを込めてつくったといわれている。

父ちゃんのためなら エンヤコラ
母ちゃんのためならエンヤコラ
もひとつおまけに エンヤコラ

今も聞こえる ヨイトマケの唄
今も聞こえる あの子守唄
工事現場の昼休み
たばこふかして 目を閉じりゃ
聞こえてくるよ あの唄が
働く土方の あの唄が
貧しい土方の あの唄が

子どもの頃に 小学校で
ヨイトマケの子ども
きたない子どもと
いじめぬかれて はやされて
くやし涙に くれながら
泣いて帰った 道すがら
母ちゃんの働くところを見た
母ちゃんの働くところを見た

姉さんかむりで 泥にまみれて
日に灼けながら 汗を流して
男にまじって 綱を引き
天に向かって 声あげて
力の限りに うたってた
母ちゃんの働くところを見た
母ちゃんの働くところを見た

慰めてもらおう 抱いてもらおうと
息をはずませ 帰ってはきたが
母ちゃんの姿 見たときに
泣いた涙も 忘れはて
帰って行ったよ 学校へ
勉強するよと 言いながら
勉強するよと 言いながら

あれから 何年たった事だろう
高校も出たし 大学も出た
今じゃ機械の世の中で
おまけに 僕はエンジニア
苦労苦労で死んでった
母ちゃん見てくれ この姿
母ちゃん見てくれ この姿

何度かぼくも グレかけたけど
やくざな道は ふまずにすんだ
どんなきれいな唄よりも
どんなきれいな声よりも
ぼくを励まし慰めた
母ちゃんの唄こそ世界一
母ちゃんの唄こそ世界一

今も聞こえる ヨイトマケの唄
今も聞こえる あの子守唄
父ちゃんのためなら エンヤコラ
子どものためなら エンヤコラ
エンヤコラ